

コラム②：かぼちゃ細菌性病害の防除対策について

宮古地域の冬春期出荷用かぼちゃでは、例年、果実肥大期以降に細菌性病害による被害が発生しています。複数の病原細菌が確認されており、葉の斑点や葉柄の腐敗症状、果皮のイボ症状、未熟果等の原因となります（図1～4）。被害果が市場に出荷された場合、クレームの対象となってしまうので、以下の防除対策を徹底しましょう。

1 防除上注意すべき事項

- (1) 防風垣は収穫まで残し、敷き草として刈り取らない。
- (2) 細菌病は風雨による土の跳ね返りによって発生する場合がありますので、敷き草は土が見えない程度に厚く敷く。
- (3) 排水を良くする。
- (4) 降雨や強風などの気象条件が続くと急激に症状がまん延することがあるので、風雨前後の銅水和剤による予防散布を徹底する。
- (5) 発病ほ場では連作を避ける。



図1 褐斑細菌病による葉の斑点症状



図2 葉柄腐敗症による被害圃場



図3 果実斑点細菌病による被害果



図4 果実斑点細菌病による果実のイボ症状